

代替農薬等の効率的防除技術の開発

【研究概要】

近年、環境保全へ配慮した防除技術や選択性の高い新たな薬剤が上市される一方で、安全性に関する再評価制度の影響などから生産停止や登録抹消により、使用できなくなる薬剤も多い。そのため、生産者や関係機関では、新薬剤・新技術の導入、代替薬剤への切り替えなどの問題を常に抱えている。そこで、新薬剤、新技術及び代替薬剤の防除効果を迅速に試験し、得られた成果を直ちに関係機関に提供することを目的に試験を実施した。その中で、今年度は下記の成果が得られた。

- (1) 檜原村産ジャガイモ疫病菌株を用いた現地主要品種の疫病感受性を比較した。
- (2) 超音波防虫装置を用いてキャベツに発生するヤガ類、メイガ類に対する防除効果を確認した。
- (3) 露地ナスで、土着天敵であるヒメハナカメムシ類の誘引技術（紫色LEDと天敵温存植物）を用いたアザミウマに対する防除効果及びナスへの被害抑制効果を明らかにした。
- (4) 環境負荷の低い2剤の農薬の混用によるキュウリうどんこ病の防除効果を慣行の化学合成農薬と比較し、同等かそれ以上の効果を確認した。